

高校演劇叢書●第七卷

西之園至郎 脚本集



門土社総合出版

高校演劇叢書●第七卷

西之園至郎 脚本集

門土社総合出版



にし の その し ろう
西 之 園 至 郎

1929年生まれ

神奈川県立大和高等学校教諭

大和高等学校演劇部顧問

現住所 相模原市相模台4-4-3

《高校演劇叢書》第七卷
西之園至郎脚本集

著者 西之園至郎

編集者 中島伸子

制作者 佐々木智子

桃澤則子

深尾久美子

舞台図 西之園理佳

印刷者 株式会社門土社

製本者 島田武

島田製本株式会社

東京都板橋区志村三十四-九

発行者 小澤紀子

発行所 門土社総合出版株式会社

横浜市戸塚区下倉田町二四七

☎〇四五(八六四)〇二四四

昭和五十八年五月二十六日 初版第一刷 発行

《定価 九八〇円》

目次

アスパラガスと馬鈴薯	3
公園の幽霊	39
列島沈没後日談	75
まい子たち	129
狎 け の飼 か い方	165
演出ノート	208
舞台図	218

ファルス

アスパラガスと馬鈴薯

《登場人物》

作 者 あ 健 お 鉄 信
造 き 造 り 次 田

東北のある高冷地の開拓部落

作造の家の庭先、上手に住居の一部が見え戸口がある。下手に畜舎や鶏小屋があり、それらしい鳴声、物音がする。上手奥に向かつて村道に通ずる道がある心持。中央は庭で大根や芋その他が干してあり、密柑箱や筵が雑然と置かれている。

幕開く。作造の一人息子の健造がゴム長をはき、集乳罐を畜舎から運び出している。そこへ卯仲買人のおりんが来る。

健造 やあ、今日は馬鹿に早えな。

おりん ああ、今日は秋祭りだ。早えとこ商いを切り上げちまおうと思つてな。

健造 何処のお祭りだ？

おりん おらの部落の明神様だ。年に一度の秋祭り、お前も来たら良かつて。年頃の娘っこが紅かねつけて誘われるのを待つてるべえから、案外とええ事があるかも知れねえ。

健造 娘っこか。俺にはまだ早え。

おりん 早え事はねえ。何もかも揃つてて立派な男前だ。男はな、二十位になつても色気づかん奴は不具だと言つてもええ……おらの部落の若えもんを見ろ。近頃はちよいちよいのダンスバーチーで、娘っこ達と全く仲がええ……

健造 開拓部落じゃ夢のような話だ。ダンスどころか祭りさえ拝めやしねえ。(家の中に入り卯を二

十個位持ち帰る）今日はこんだけだ。

おりん 二十個か（懐から財布を出して数えながら）開拓も大変だな、成功検査は近づくし猫の手も借りたい位忙しかんべから、（金を渡す）。

健造 二十四足りねえんじゃねんか？

おりん 今日の値段はそんだけだ。卵も近頃は産み過ぎちまつてるから。

健造 ちえつ。二十四位けちけちなさんな。

おりん したらばおらのもうけがなくなつちまう。こんでも他所よりサービスしてる積りだ……

健造 七円位で売れても餌代がやつとこだ。卵だって、てめえの口に入れるのは一月に一度か二度

……稼ぐに追いつく何とやらと言うが、俺こんな貧乏暮しはつくづく嫌になつちまつた。

おりん 今の若えもんは誰だってそう言う。まず、それも無理ねえよ。東京さ出ると中学を終えたばかりの子が、いい稼ぎをするちゅうから。

健造 ほうだとも。こんな所でウジウジと畑をいじっているのが馬鹿らしくなるよ、全く……。親子三人日がな一日働きづめで五百円の日銭にもならねえ。それによ、急に父ちゃんが仕事の氣力をなくしちまうし……。

おりん 父ちゃんが仕事しねえ？ そらまた何でだ？

健造 詳しい事は俺には判らねえが……何でも、この土地を売るとか売らねえとかで毎日毎晩母ちやんと喧嘩口論だ。

おりん 土地を売るちゅうても、ここの開拓地は売買出来ねえと違つか？

健造　そこらの手続きには、何かカラクリがあるんだろう。分譲した者もいるが、そいつらはちよ

っぴりお叱言を食っただけだ。父ちゃんは、どうせ成功検査に合格する見込みはないから、今の中に出るのが賢明だと言うし、母ちゃんは母ちゃんて住みなれた土地を離れたくねえと言うし、間に立って俺はウロチヨロするしか法はねえ。

おりん　意気地のねえ事言つてねえで、男らしくなんとかしたら良かったべ。

　　もぐりの土地ブローカー信田が来る。この辺には相応しくない服装だが、どことなく下品な感じ、そして無理に威厳を取繕うとする意識がうかがえる。

信田　親父さんは御在宅かね？

健造　（怪訝そうに）ハア。

信田　信田だが、是非逢いたいと伝えて下さらんか。

健造　ハア。

　　健造納得のゆかない顔で家に入る。信田はそこらをブラブラと歩き廻り、おりんはそれをじっと見ている。思い切ったふうに。

おりん　信田、ちゅうと、以前この部落にいたんじゃ……？

信田 はい、確かにその信田ですが……。

おりん やっぱり信田さんけ、ほうけ、まるつきり立派になっちまって……。

信田 あんだは、一体、誰でしたっけ？

おりん とぼけなくともよかつて、おりんだよ。……小野山部落のおりんだよ。

信田 おお、おりんさんですか。……いやあ、こりや失礼しました。

おりん いつの間にかこの部落から消えちまって何の消息もねえで、何処でどうしているのやらと案じてはいたけんどはア……すっかり貫録がついちまって……それで、今何処にいるのけ？

信田 東京にいまさあ。

おりん やっぱり東京かね。まらずそこら辺りと見当はつけてたけんど……それで、何処に勤めているのけ？

信田 いや、ちょっとした商売ですがね。今度その商売でこの近所まで来る用事があつたもんで、つい懐しくて寄つてみた所ですよ。……この辺りは十年前そのままですなア。相も変わらぬ貧乏部落で、変つたのは子供がいやに多くなつた位じゃないすか。

おりん 映画もテレビもねえし、夫婦者の楽しみという毎晩睦み合う位が関の山。子供が増えるのも当り前だべ（二人笑う）。

信田 こうして考えると、あたしや此処を離れて賢明でしたよ。……東京に出た当座は織物の行商などやって、人に言えない程の苦勞を重ねはしたが、生まれつき商売の才能があつたせいか、これと言つた失敗もなく、今じゃどうやら人並みに暮せるようになりましてねえ。

おりん その身なりじゃ人並み以上だべ……ともかくまず目出てえことだ。今の世じゃ商売が一番ええ、その気になりさえすれば金はいくらでも儲かるべ……ところで、作造に特別用事でもあるのけ？ うまい話だったら、おらも一口乗りてえもんだ。

信田（ややあわてて）そんなんじゃありませんよ。昔の誼みで顔見に來ただけですよ。

作造と健造、家の中から出て来る。

信田 先だつての返事を聞きに來たんすよ。

おりん、きき耳を立てる。

作造（おりんと健造に）濟まんが、大事な話があるで、他へ行つちまってくれ。

おりん（信田に）暇があつたら、おらげにも寄りなんしょ。

健造 牛でも見廻つて来るべ（畑の方へ去ろうとする）

作造 健造！ 卵の代金を置いて行け！

健造 ええのけ、どうせ、又パチンコですつちまうんだろう。

作造 おらの金をおらが使つて悪い事があつか。四の五の言わねえでさつさとここさ置いて行け。

健造（邪険に金を渡す）

作造　こんじや、足りねえでねえか？

健造　俺よりおりんに聞いた方が手取り早いよ（去る）。

おりん　卵が安くなったのは、おめえだって知らねえ訳はねえべ……。 （信田に未練を残して）じや待つてゐるから必ず廻んなんしよ、相談ぶちてえ事もあるで（そそくさと去る）。

健造　けつ！　業つく婆ア奴、間違つても高く買いやがつたためしがねえ。

信田　まあ、いいじやないすか。今時がめついい位でないと世渡りは出来ねえすぜ……。ところで、今日は色良い返事をきかして貰いてえんすが……。

作造　済まねえが、後二、三日待つて貰えねえけ。ここ数日、いろいろ噂の説得に努めてはいるんだが……。

信田　今日で一週間も待つたんすぜ。そんなに暢気に構えられたんじや、商売が干上つちまいまさア。あんたはこの家のあるじでしょう？　あんたの決心さえ固いもんだったら、奥さんだって息子さんだって一言もなくついて来ますよ。

作造　そういつたつて、噂は相当の難物でな、ちつとやそつとではおらの言う事を聞きやせん。

信田　あたしや、あんたの為を思えばこそ言つてゐるんですぜ。十五年もの間肥料を投入して、それでもこんな酸性の強い瘦せ衰えた土地を、ガサガサいじつてゐる事自体、理にはずれた馬鹿馬鹿しい事はありませんぜ。

作造　一口に十五年と言うけど、たった五年で逃げ出したおめえより、十年も永くこの土地にしがみついて来たんだ。

信田 その結果がどうだと言うんです。ええ？ 陸稻を作ったり玉蜀黍を作ったり、アスパラガス

を作ったりしたって多寡が知れてるじゃないすか。牧草地にして乳牛を飼うにしても、考えてる程の利潤は到底望めやしねえすぜ……まあ、こんな土地を騙し取る訳じゃねえ。時価以上の値段で買って上げましようと言ってるんだから、ためらう理由は何処にも見当らねえでねえすか。

作造 で、ここを買い取ったらどう言う風に使うつもりだ？

信田 そこですよ、解って貰いてえのは……いいすか、たったの五年間だったが、あたしやここに入植し、あんた方と同じ苦勞をなめて来た。そして、あんたや鉄次の親父には殊更に世話になった。だから余裕の出来た現在、まあそのお札と言っちゃなんだが、いくらかでも喜んで戴こうと思つて遙々とやつて来たんすぜ。買上げた土地をどう使うか、そんな事は問題じゃありませんや。要はあたしの氣持を汲んで呉れるかどうかなんですなあ。

作造 おめえの氣持は良くわかる。おら涙が出る程嬉しい。そんだけにつれえんだ。

信田 氣乗りがしないんだつたら、この話はなかったもんと考えて戴きましよう。

作造 そう出られちまうと、おら困つちまうだ。まあなんだ……そんで、鉄次はどうすると言つた？

信田 鉄次は話が早いです。奥さんともども凄く喜んでくれて、大乘氣すよ。明後日、本契約を済ます予定がね……じや、まあおまえさんには二日程猶予を呉れてやるとするか、その代り明後日迄返事がきけなかったら話は打切りだ。

作造 飯にここを売つちまうとして、さし当って困るのは仕事を探すことだ。その見通しがつかね

え中は……。

信田 その事だったら、そっくり委して貰いやしよう。後の仕事は、息子さんの分までちゃんと探して差し上げますよ。なあに、あたしやこう見えても東京ではちったあ顔が売れてまさあ。二人や三人の仕事の幹旋位他愛のないことで、まあ、大舟に乗ったつもりでいて貰いやしよう。（おもむろに煙草ケースから煙草を抜き、作造にも勧める）。

作造 （卑屈に）二本貰ってええかね？

信田 いいす。いいす。何本でも構わないす。

作造 じゃ三本貰うべ（両耳に一本ずつ挟み、一本を口にする）。

信田 気取ったポーズでガスライターを取り出し、火をつけてやる。作造の物欲しげな視線。

作造 ええもんを持つちよるな……ちよっくら見せてくれんかい。……高いもんじゃろう？

信田 大したこたアないす。

作造 全くええもんだ。こらア。

信田 そうだ、そんなにお気に召したなら潔く差上げましよ。土産代りにとつといて下さいよ。

作造 （一応遠慮して）おらにや、贅沢過ぎるよ。

信田 いいってこと、いいってこと、贅沢な品じゃ決してないす。こんなもの。

作造 そうかね。貰ってもええかね（と見こう見しながら）おら一ぺんでもええから、こんな豪勢なものをも身につけてみてえとかねがね思つてはいたんだよ。いや、有難え有難え。

信田 その代り、さっきの件はよろしく頼みますぜ、ほんまに。

作造 いざとなつたら、張つ倒してでも鼻を納得させつから……。

信田 その意気、その意気。一家のあるじはその位の氣慨がなきや……そこまで決心がつけばこちらとも安心だ。……しかし、あんたも良くまあこんな土地に十五年も辛抱したもんだ。

作造 辛抱するもしねえも、天涯つてのねえ身であれば、此処で頑張るより法はねかつたよ。転業の当てがあつたら、とつくに転業しちまつてたべ。

信田 いや、此処で十五年も頑張つた意地と根性があつたら、東京に出て新しい仕事に就いてもきつと成功する事は疑いないすよ……。一年間丹精して作つたものに、僅かの涙金しきや酬われねえ百姓と違つて、やる気になれば忽ち大金が転がり込んで来るのが都会だ。儲けるだけ儲けて、大いに楽しむのが人間らしい生き方じゃないすか。

作造 やる気は充分あるつもりだ。……もし東京に出られたらおめえにいろいろ指導して貰つてがつちり働くよ。そして開拓者を馬鹿にしくさつた連中を必ず見返してやるべ。あいづら代々受継いだ土地を後生大事に守つているだけの癖に、開拓者のやることなすこと片端からけちをつけやがつた。一皮むけばド助平のくせに……。

信田 それはお互様すよ。あたしなんざ月に何度か女の子と遊ばにや、体の調子がおかしいすよ。どうです。東京に出たら早速いい所に御案内しましょう。ピチピチした綺麗どころが大サービス

してくれまさあ。ヒツヒツヒツヒ。

作造 そんなええ所があるのけ？ 肥料臭い空気を吸っているよりも、めんこい娘っ子の面を眺めていた方が、余程長生きするべえ（ニヤニヤしていた口を拭う）。

妻あき畑から帰って来る。

あき 誰だね、そのお客は？ 土地の話ならお断りだよ。

信田 奥さん、そう頭から言われちゃ、実も蓋もないじゃないか。穂やかに話をつけましょうよ。穂やかに。

あき 生憎だが生まれつき穂やかに話の出来ねえたちでね！

作造 あき、そう突慥貪に言わなくとも良がっぺ。ひよつとするとおら達の大恩人になる人に向かつてよお。

あき（顔色を変えて）そらあ、どう言う意味だ？

作造（権幕に僻易して）意味とは……そのう何だ……おめえだつてわかつてるべ。

あき わからねえから訊いているんだべ！

信田 まあまあ奥さん。そんなにがみがみ噛みついちゃ、真直ぐな話も曲っちゃいますあ……。

あき がみがみで悪かったな。

信田 悪い事はないす。……ま、とにかく旦那さんの話も聞いてやって下さいよ。